

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第4号

発行 / 大阪大学医学部附属病院広報委員会 (総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

住所 / 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15 TEL / 06-6879-5016

カルテの電子化始まる

阪大病院では、昨年7月から一部カルテの電子化を始めました。

これまで、会計や薬剤検査のオーダーなどの電子化を進めてきましたが、電子カルテが動き出して患者さまの病歴、症状も早く把握できるようになり、病院システムのIT化は大きく前進しました。関連病院や地域の診療所との電子ネットワーク化も具体化してきており、医療の質を向上させるものと期待されています。

阪大病院は1993年に、大阪市内から現在地へ移転しましたが、病院の設計段階からIT化に対応できるように基盤を整備し、「インテリジェントホスピタル」を一つの目標としてきました。

「1患者1カルテ」を基盤にIT化 病歴、症状を早く把握



電子カルテを表示して患者さまに症状を説明します

IT、93年から本格化。医師会計のコンピュータ処理は70年から始まっていましたが、電子カルテを中心としたIT化へ向けて本格的に動き出したのは93年からです。IT化をすすめている医療情報部の武田裕一郎部長は、まず、医師の意識改革から始めましたと、言います。電子カルテになると、すべての情報が共有化され、病歴は1人の患者さまに各科ごとにカルテを作っており、

た。新病院になってから、「1人の患者さま

に1つのカルテ」にしました。患者さまがどの科を受診しても、同じカルテを使います。各科の担当医師は時系列的に記入します。各科の垣根を越えて、情報共有化されるよう

予約受け付けから検査、会計、薬までカルテだけでなく、実際の診療面でもIT化を推進しました。予約の受け付けの自動化、薬の処方箋や検査依頼などをIT化しました。

検査が必要ときに従来は医師が検査依頼書を書いて、患者さまが検査室まで持参してました。これを、診察室と検査室をオンラインで結ぶことで、医師が入力するだけで検査室に検査依頼が届くようになったのです。薬の処方も同じです。医師が診察室で、処方する薬をインプットす

れば、薬剤部に直接届き、患者さまが処方箋を窓口まで持って行く必要がなくなりました。データは会計システムにも取り込まれ診療報酬や検査費、医療費などが自動で計算されます。

また、データがデータベースに蓄積されるので、これを分析して治療の評価等に役立てることが出来ます。将来は、患者さまが退院後に地域の診療所や病院で治療を継続するときには、患者さまのデータを転送したり、データを共有してきめ細い対応ができるようになります。同部の松村泰志副部長は、「電子カルテ導入で、患者さまに効率的で、質の高い医療を提供できるように」と話しています。

チーム医療を実現 院内・地域で診療情報共有

IT化によって何が変わってきたでしょう。今日の医療では、1人の患者さまに、主治医以外に多くの医療スタッフがかかわっています。例えば、放射線の専門医は患者さまの画像を診断し、薬剤師は薬の内容をチェックしています。こうしたチーム医療のために、誰も患者さまのことをよく理解している必要があります。

また、それぞれが実施した医療の内容を他の医療スタッフに分かるように記録する必要があります。従来は紙のカルテに記録していましたが、スタッフが患者さまにかかわるようになるにつれ、ひとつしかないカルテが取り合えない状況が現れました。そこで、カルテの情報を電子化し、医療資格のある職員であれば患者さまの情報端末で検索できるようにしました。コンピュータにより患者さまの情報は自動的に整理され、処方された薬、実施された検査、その結果やその時撮った画像を端末から簡単に見ることができるようになりました。

また、データがデータベースに蓄積されるので、これを分析して治療の評価等に役立てることが出来ます。将来は、患者さまが退院後に地域の診療所や病院で治療を継続するときには、患者さまのデータを転送したり、データを共有してきめ細い対応ができるようになります。同部の松村泰志副部長は、「電子カルテ導入で、患者さまに効率的で、質の高い医療を提供できるように」と話しています。

また、データがデータベースに蓄積されるので、これを分析して治療の評価等に役立てることが出来ます。将来は、患者さまが退院後に地域の診療所や病院で治療を継続するときには、患者さまのデータを転送したり、データを共有してきめ細い対応ができるようになります。同部の松村泰志副部長は、「電子カルテ導入で、患者さまに効率的で、質の高い医療を提供できるように」と話しています。

新医療開発を推進

阪大病院の将来目標イメージ

2003年度(2009年度)

メディカルセンター構築

2003年度から2009年度までの間の阪大病院の将来目標イメージがこのほど固まりました。大阪大学の

医学研究科、医学部、医学部附属病院の3者はこのほど「医学研究科 医学部・医学部附属病院の教育・研究・社会

貢献の目標と将来計画」をまとめました。この中の「医療面から見た社会貢献の目標」の項目で、阪大病院の

将来目標イメージが固まってきました。大阪大学では、独立行政法人化の2003年実施を想定して各部

同で将来計画や将来目標イメージ例作成に取り組みしています。今回まとめた「目標と将来計画」をもとに、大阪大学設置形態検討委員会が大阪大学の将来像を具体化していくことになりま

第1は未来医療センターの構築です。理

学部や工学部、基礎工学部などの他学部、他研究施設とリンクして、基礎研究を先端的医療開発に直結させます。

第2はメディカルセンターの構築です。理

学部や工学部、基礎工学部などの他学部、他研究施設とリンクして、基礎研究を先端的医療開発に直結させます。

第3は先端医療産業の育成です。大学内外の研究施設や企業、ベンチャーから先端技術を広く受け入れて臨床応用する拠点を目指していきます。

第4は地域への貢献です。地域医療ネットワークの中核としての支援や、救急・災害医療の中核としての体制整備、医療関係者の教育のお手伝いなどを通じて地域社会に貢献していきます。

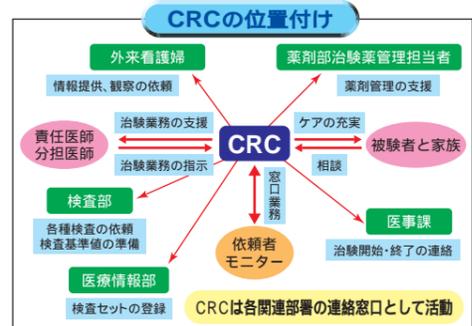
あわび

2001年7月16日午前10時半ごろから午後3時半ごろまで病院のコンピュータシステムがダウンし、患者さまに大変ご迷惑をおかけしました。薬剤や検査依頼のオーダーリング・システム

ム・サーバーに負荷がかかりすぎ、スロウダウンしました。原因を突き止めるのに時間がかかり、長時間ご迷惑をおかけしました。今後、このような事態が起きないようにシステム管理に十分に留意致します。

新薬の治験 より安全に

臨床治験事務センター 担当者14人が患者をケア



病気の予防、診断、治療に医薬品は大きい役割を果たしています。新薬も次々開発されていますが、その新薬が安全でよく効き、実際に臨床の場で使えるか判断するため、製薬会社の依頼を受け、阪大病院でも患者さまに協力していただき臨床治験（治験）を行っています。

臨床治験（治験）を科学的、倫理的に正しくなければならず、阪大病院では臨床治験事務センターを設置して適正に行っています。

センターは1998年4月に院長直轄の組織として発足、6月から実際に活動を始めました。センターはセンター長、センター長補佐と事務官、薬剤師と治験協力者（CRC）で構成されています。

選ぶ治験の管理も責任医師がほとんど行っていました。このやり方は治験の科学的客観性や安全性が確保されないとの声が出ました。98年に治験の新しい世界的基準が定められ、日本で行われている治験に合格しても、世界的には新薬として認められない可能性も出てきました。このような背景でセンターが発足しました。

センターが発足するまでは製薬会社担当の医師（責任医師）が直接治験の契約をしていました。また治験に参加した患者さま（被験者）を選ぶ治験の管理も責任医師がほとんど行っていました。このやり方は治験の科学的客観性や安全性が確保されないとの声が出ました。98年に治験の新しい世界的基準が定められ、日本で行われている治験に合格しても、世界的には新薬として認められない可能性も出てきました。このような背景でセンターが発足しました。



糖尿病教室では糖尿病食など糖尿病を治す自己管理を学びます

病気をよく知ることが病気を治すことにつながります。特に生活習慣病は患者さまの自己管理が一番の治療法です。

センターが治験の契約や管理はすべてセンターを通して行っています。中でも重要なのがCRCです。CRCは薬剤師や看護師の資格を持った人が担当しています。現在、センターにはCRCが14人います。治験中の患者さまの相談にのり、ケアをすることが重要な仕事です。責任医師から患者さまが治験の説明を受けるときには必ず同席し、補足説明をし、インフォームド・コンセントを行います。

助けます。治験が始まる前から、被験者の検査データをもとに、副作用のチェックを行い、治験薬の副作用情報を集めて被験者の安全を確保します。さらに、責任医師の仕事の手助けもします。治験データを管理し、科学的に正しく治験が行われているかをチェックします。阪大病院では、臨床治験コーナーを設けて、外来の被験者の対応をしています。

阪大病院では、初期のうちに糖尿病の患者さまを対象に、糖尿病教室を開き、治療の支援をしています。

糖尿病は初期のうちには自覚症状がなく、知らないうちに進行して糖尿病網膜症などの合併症を発生します。健康診断で、血糖値が高いといわれたら、精密検査を受けて、早めに治療を始めることが大切です。

阪大病院には、初期の糖尿病の患者さまを対象にした、教育入院制度があります。糖尿病教室は、教育入院の患者さまはもちろん、糖尿病で入院されている患者さまと、その家族の方を対象に開いています。

リスクマネージャー バッジを付けます

本院の病棟、外来、中央診療部門、事務部門には、医療事故防止対策・安全管理対策の業務を担当するリスクマネージャーを配置しています。患者さまにもお分かりいただけるよう、各リスクマネージャーは11月からバッジ=写真=を付けることにしました。



患者さまを安全に警備体制を強化

最近の新聞、テレビでは毎日のように物騒な事件が報道されています。公的機関として阪大病院もセキュリティを再確認し、さらに高度な安全管理のために以下のような処置を取りました。皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。

- ・エントランスホールにガードマンを配置
- ・夜間の病院出入り口の施設
- ・看護婦宿舎を含めた病院地区の夜間の巡回警備
- ・深夜の警察官による巡回警備
- ・出入り口等の監視カメラの増設

院内学級の子もたち 大運動会に歓声

9月20日に病棟6階で府立刀根山養護学校阪大病院分教室の大運動会が開かれました。生徒たちの実行委員会が中心になって、応援合戦など6競技を企画。選手宣誓の後、お父さん、お母さんや看護婦、実習学生等が大声援する中で、「子供中大人チーム（白）」と「ブルーシャークチーム（青）」の二手に分かれた生徒30人余が、風船パレーなどを楽しみました=写真。



ミッキーとミニー 子どもたちお見舞い

10月1日、阪大病院の小児科、小児外科病棟を東京ディズニーランドのミッキーマウスとミニーマウスがお見舞いに訪れました。ミッキーとミニーはアンパサダーのお姉さんと一緒に病棟を回って子どもたちに元気にあいさつ。病気やけがで遊びに行けない子どもたちに夢と希望を運んでくれました。実物のミッキーとミニーに会えて子どもたちも大喜びでした。

なぜ病院内でのPHSの使用を禁止しているのか。

現在、病院内で携帯電話、PHSの使用を禁止しているのは、医療器具に誤作動などの影響を与える可能性があるためです。PHSに関しては悪影響を与える可能性が極めて低いことが確認されています。しかし、ペースメーカーを装着しておられる患者さまも多く、一般携帯電話との区別も難しいため、これらの患者さまがご自分への影響を危惧しておられる現状もあることを考えると、現段階においてPHSだけ承認することは難しいと考えています。

病気に合わせ食事指導

病気になることと食事には大きな関係があります。病気に合わせて食事制限が必要ですが、一方で病気に合わせて食事制限が不要な場合もあります。阪大病院では、栄養管理室の栄養士が病気に合った食事のアドバイスを行っています。外来の患者さまとその家族の方には、栄養指導室で指導しています。1カ月に100人ほどの患者さまが訪れていますが、肥満の方のカロリー制限食、腎臓病の方のための食事、高脂血症や高血圧など生活習慣病の方のための食事などさまざまです。食べ物のカロリーや栄養素についてお話し

ホスピタルミニニュース

分かりやすい糖尿病教室

患者同士の話し合いも

糖尿病は初期のうちには自覚症状がなく、知らないうちに進行して糖尿病網膜症などの合併症を発生します。健康診断で、血糖値が高いといわれたら、精密検査を受けて、早めに治療を始めることが大切です。

糖尿病は初期のうちには自覚症状がなく、知らないうちに進行して糖尿病網膜症などの合併症を発生します。健康診断で、血糖値が高いといわれたら、精密検査を受けて、早めに治療を始めることが大切です。

糖尿病は初期のうちには自覚症状がなく、知らないうちに進行して糖尿病網膜症などの合併症を発生します。健康診断で、血糖値が高いといわれたら、精密検査を受けて、早めに治療を始めることが大切です。

糖尿病は初期のうちには自覚症状がなく、知らないうちに進行して糖尿病網膜症などの合併症を発生します。健康診断で、血糖値が高いといわれたら、精密検査を受けて、早めに治療を始めることが大切です。

糖尿病は初期のうちには自覚症状がなく、知らないうちに進行して糖尿病網膜症などの合併症を発生します。健康診断で、血糖値が高いといわれたら、精密検査を受けて、早めに治療を始めることが大切です。

防犯訓練に参加を

医師会便り

茨木市医師会会長 岩永 啓

毎年秋になりますと、各地で防犯訓練が繰り広げられます。最近では自衛隊の参加まで見られるようになり、空から川からの救助活動が展開されるようになって参りました。

阪大病院では、初期のうちに糖尿病の患者さまを対象に、糖尿病教室を開き、治療の支援をしています。

糖尿病は初期のうちには自覚症状がなく、知らないうちに進行して糖尿病網膜症などの合併症を発生します。健康診断で、血糖値が高いといわれたら、精密検査を受けて、早めに治療を始めることが大切です。

糖尿病は初期のうちには自覚症状がなく、知らないうちに進行して糖尿病網膜症などの合併症を発生します。健康診断で、血糖値が高いといわれたら、精密検査を受けて、早めに治療を始めることが大切です。

糖尿病は初期のうちには自覚症状がなく、知らないうちに進行して糖尿病網膜症などの合併症を発生します。健康診断で、血糖値が高いといわれたら、精密検査を受けて、早めに治療を始めることが大切です。

阪大病院では、初期のうちに糖尿病の患者さまを対象に、糖尿病教室を開き、治療の支援をしています。

糖尿病は初期のうちには自覚症状がなく、知らないうちに進行して糖尿病網膜症などの合併症を発生します。健康診断で、血糖値が高いといわれたら、精密検査を受けて、早めに治療を始めることが大切です。